

刊夕廿二月四



定価 一紙五銭 一月一元五角 半年七元五角 一年十三元
 廣告料 五銭以上 一紙一元五角 五紙以上 一元
 日曜 祭日 休刊
 発行所 常警日新新聞社 電話 六二〇〇
 印刷所 常警日新印刷株式会社

平町を觀る (5)

山口彌一郎

六、盆地の水田
 平町は南部の谷川瀬に境して廣い平野をもつから一六〇町歩近くの水田をもつてゐる。最近片倉製絲會社附近が大變南部に進出したが盆地の排口が鎌田、山崎附近で押へられ洪水の被害がある。新川以南には發展に困難である。地方的な町の端には半商、半農が農業を主とする村の續いてゐることが多いが平には全戸數の單に四割が見られるのみで、平町が地方的な町であつて而かも大都市的な特色をもつてゐるのを知り得る。

水田の海水面より的高度は一〇米以下で常警銀行支店前の道路でも九七・七米に過ぎない。土壌の厚さも相當大なので若し一〇米より以下まで續いて居れば極く最近の時代まで海水に浸つてゐたではなからうかとも疑はれる。洪水や灌漑で堆積する土砂の層も大であるし土地一般にも稍々隆起する傾向があるので、一方洪水の被害があり、地方附近の山も浅いので灌漑に困難な地方もある。盆地外の

神谷、草野、大浦、夏井の方面は水田の面積も大で澤村堰や愛谷堰等で人工的に灌漑してゐる。

七、炭田を叩へて

石炭の發見は相當古いが經濟的進出を始めたのは西南役に際して東京、横濱附近に九州炭の供給が杜絶し文化地帯の近距離に炭坑の必要な事が知れて濫濫、淺野氏等が炭田開發を企圖し明治十六年湯ノ嶽に小野田炭坑を開坑してからである。炭層は十度ばかり東に傾斜してゐるので西程深い。阿武隈山地の麓に炭層の露頭が多いから最初は皆その附近に炭坑を始めた。明治三十年頃には好間の奥にも宮澤にも白水の奥にも開坑

ノート

禮砲は敵の目の前で實彈を打ら放して砲を空にして我に敬意なきを示したことから生じた儀禮である

して陣容が整つた。段々東に下して採掘するから坑が深くなつて掘出に困難になるとその東に又新しく開坑する。この段々東に谷に沿うて炭坑が移つて來ること、は面白い現象なので他の炭田にも例があるだらうと探

してみた。北海道の石狩炭田は新らしいので餘りはつきりはないが傾向はもつてゐる。

山口縣の宇部炭田は最もよい例であらう。炭層は南方に傾斜して遂に深い瀬戸内海の底に延びてゐる。

二明日の献立

- 【朝】みそ汁、わかめ
- 【晝】さしみ、かつをぶり分けうど、やしものり、合せ醬油
- 【晚】にしめふき、かんぴょう

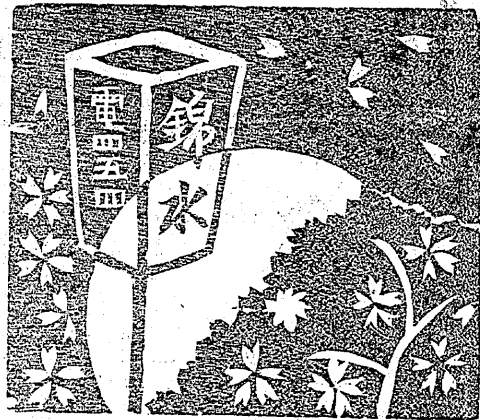
最初はやはり露頭の多い北の山地に近く採掘してゐたが段々海岸に進出した。海底は掘れても炭層の會社や町は海の中には進めないから海岸に踏み止まつて砂丘の松林を切り開き、海に沿うた細長い今の宇部が出来た。宇部市は村から一躍市制を敷いた程で目覺しい發展振りをさせたのである。然し一方すぐ行き詰るであらうと考へたらしい。先覺者は宇部炭田を中央の財閥にまかせないで宇部市民の手に依つて持ち續け様と覺悟し、瀬戸内海の工業地帯を利用して火力發電所、紡績會社等を同一資本で經營始めた。

春のトレンデコート	7.50
春のペアバリー	3.00
春の正札堂特製トンビ	8.50
春の紺セルネツミ セル外套	4.50
春の三ツ組セビロ	7.50

平四丁目停車場通り

正札堂

電話三六番



お花見折詰

當辦入重御

是非御利用を

營業時間午後九時迄

平町四丁目河岸通り
三井質店
 電話六〇六番

櫻花の季節になりました
 お花見には是非

お花見の折詰

時節柄價格低廉
 奉仕的勉強
 平町一丁目

三井質店

電話一四一番



特賣品を(一名)朗折詰で

御一人前 五十五銭

魚 七品
 すし 七品
 銘酒 二合ビン 一本
 サカツキ 一本
 花カンザシ お土産品 一本

立献詰折朗
 百個以上は特に御相談に應じます

外に 魚 折詰 二十銭ヨリ
 すし 折詰 二十銭ヨリ

せ魚味會堂

例年の通り魚清自慢の

特製 みつ豆 八銭

始めました

意外な大賣れゆき厚く御禮申上げ候

共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙 郎
 自宅(電話一二四番)

内科	醫學博士 石山謙 郎
小兒科	醫學博士 佐久間 謙
外科	醫學博士 桂 重 郎
喉科	醫學士 有馬 勇 二 郎
皮膚科	醫學士 五十嵐 雄 二 郎
産婦人科	醫學士 佐久間 謙 郎
X光線科	醫學士 藤 謙 郎
衛生試験所	技師 石山 謙 郎
藥局	技師 高石 謙 郎
	技師 吉本 孝 平

◎診療時刻午前八時より午後五時迄
 (但急患は此の限りに非ず)

平町 **磐城共濟會**
 電話六四一番

團員一致協力

非常時に處すると

けふの本縣聯合青年團決議

本縣聯合青年團第十二回總會は本日午前十時より警中講堂に開かれ出席者四百餘名にて先づ藤田副團長の開會の辭に次ぎ國歌合唱あつて伊勢大廟並びに宮城を遙拜、末原學務部長の令旨奉讀

知事の訓辭(末原學務部長代讀)青沼町長の歡迎の辭あり庶務會計の報告に續き本年度体育大會を若松市に開くべき事を報告、役員選舉あつて協議に移り本郡提出の『本縣より縣聯合青年團に對する補助金増額の件』及び『本縣男女青年團獎勵資金の利子を男女青年團の事業費に交付せん事』外若松市提出の『青年團員を新興

滿洲國視察に派遣せられん事を本縣知事に建議するの件』等何れも滿場一致可決し、晝食喫飯後元旅順師範學校長津田元徳氏の『滿蒙事情』と題する講演及び各郡代表の意見發表あつて後左の如き決議をなし午後三時散會を告げた
吾等青年は客月二十七日渙發あらせられたる國聯盟離脱の詔書を拜し恐

懼に禁ぜず團員益々協力一致以て非常時に處する縣民の覺悟に定められたる實施要項の實行を期して記念品を贈呈する事に決定を見た

役員改選

別項本縣聯合青年團總會に於ける役員改選の結果は團長末原學務部長、副團長高久縣外視察 石城郡高久村青年團では來る廿五日午後一時より村役場に於いて役員會を開き縣外視察團員を決定すると

藤田分會長に

有功賞授與

閑院宮邸に召されて

平町軍人分會長藤田榮助氏は來る五月十一日閑院宮邸に召され軍事功勞者として有功賞を授けられる事になつたので來月十日平發午前九時一分にて上京伺候するが本縣に於いて此の榮譽を擔ふは北會津郡の平山中尉と藤田氏との二名のみであると

本郡選士が

雄辯會の一等賞

既報縣下聯合青年團第四回雄辯大會は昨夕六時より平發會議室に於て末原學務部長外九氏審査の下に開催されたが入賞者は左の如く決定したと
(一等)岐路を立てる農村を想ひて 石城郡片寄一

(二等)未定 河沼郡新井田廣(三等)受難を服從せしめよ 西白河郡芳賀徳次郎

郡内全般に亘り

養豚の健康診断

平署衛生係では縣と協力して郡下各町村の豚コレラ豫防並に健康診察を左記日割にて行ふ事になつた
五月二、三日勿來 四日川部 五、六日錦 七、八日植田 九日山田 十日一日泉 十二日渡邊 十三日磐崎 十四日十五湯本 十六日玉川 十七日鹿島 十九、廿日小名濱 廿一日江名 廿二日豊間 廿三、廿四日高久 廿五、廿六日夏井 廿七日飯野 廿八、廿九日及内郷 卅日平窪 卅一日及び六月一日平 二、三日好間 四日神谷 五日草野 六日、八日大野

一條實孝公

平町で軍事講演

平軍人分會及び青年團にては明日午後一時より平第三小學校講堂に於て軍事思想講演會を開くが講師は海軍大佐一條實孝公、海軍大佐高橋雄三郎、大日本君臣會理事村上芳三の三氏にて一條公爵は明日午前十一時一分着にて來平釜屋別邸に宿泊すると

醬油品評

審査

入賞決定

石城醬油醸造組合主催第一回醬油品評會は去る廿一日より二日間平發稅務署樓上に開會出品六十点の多數に及び昨廿二日仙臺市醸造鑑定家龜田兵治氏が審査の結果入賞者左の如く決定した
(二等)平小野圓次郎 大浦高木石藏 江名大和醬油會社(二等)四倉鱗屋合名會社 平山崎合名會社 小名志賀要平 好間叶多

鹽小賣商

明日總會

平地方鹽小賣組合にては明日午前十時より四丁目丸友ホールに於て總會を開き決算及び豫算協議し專賣局平出張所長の訓辭ある外高橋主任書記の營業に關する講演がある

遠足運動

平第一校で

平第一小學校にては來る二十五日全校兒童の遠足運動會を左の如く催すと
(一年)八幡様より公園
(二年)夏井村專稱寺(三年)同大國魂神社(四年)鹿島村八幡宮(五年)關伽井嶽(六年)豊間村燈臺(高等科)大野村玉山

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雑誌

自由に讀める

川崎文庫

電六三〇番 申込次第(規則書進呈)

市原醫院

平町 田町 電話一四四番

第三校の増築委員

十三氏を推薦

既報平町々會に昨廿一日午後一時より役場會議室に開會町費補助は五月二日平町に開催される縣下町村長會協賛會に七百圓及び石城消防協會に百圓、縣下青年團に百五十圓、同女子青年團に五十圓を夫々交付し寄附採納は青沼淡夫氏外三氏の全部を受理する事に決定した尙第三小學校増築委員は

平町人事

出生

△播磨小路一 松本昭男氏 長男恒雄

婚姻

△紺屋町四一 織田時松氏 (二六)行城郡神谷村字上 八西山ハマ(二二)

木炭検査採用

既報販賣木炭検査實施の爲め來月七八の兩日平町に於いて検査員の採用試験が執行される

春・盗難續々

多い日は一日廿件

一番多いのは空巢狙ひ

ボカんとめつきり春めいて来た昨今平署司法部に毎日々々届れる盗難届は多い時は十八九件から廿件少い時でも五件を下らぬといふ盛況振りであるが春先の盗難をこの届出によつて見ると矢つ張り空巢がトップである今迄家に許り引籠つてゐたのが急に陽氣の加減に一家總出で出かけた留守中をコソコソと持つてゆかれる萬引は店先で春物等を見てゐる裡に「フー」と引張つて仕舞ふ春陽四月は盗難シーズンである一般は用心されたいと

自動車の車体検査

平署管内に於ける各種營業自動車の車體検査は來月一日より六日正午迄警中グラウンドに於いて執行四倉署管内の検査は六日正午より行ふと

女房よ 母よと

父娘が放浪

昨廿一日午後九時頃平署受付に親子連れのロンペンが

明日満開の日曜

天候は保證付き

恵れた本年の花見季節

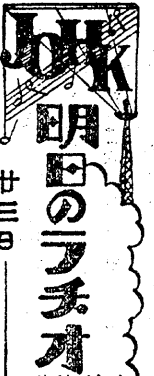
平町の松ヶ岡公園及び新川端の櫻は丁度見頃の八分咲きとなり晝夜押し掛けの観櫻客に依つて押すな押すなの大雑踏、花と酒とに酔つた人の群れが歡樂の渦巻きに解け込んで此處ばかりは不景氣知らずの極樂境お蔭で賣店や物賣りは

来る廿七日は 結核豫防デー

各種團體と協力して 防止宣傳に努める

平警察署では来る二十七日結核豫防デーに際し自覺を促すの目的を以て町村當局醫師會、衛生組合、教育團體、青年團と協力防止宣傳をする事になつたが主な計畫事項としては

- 1 宣傳ポスター配布 官衛 學校 工場 湯場 理髮店 宿屋 料理屋 貸座敷等多數人の集合する適當なる場所に配布掲示
- 2 宣傳ビラ配布
- 3 宣傳講話會の開催



明日の天気

今夜は北東の風雨 明日は北東の風曇り次第に快復いたします

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間お話と唱歌 お話吉川左京 唱歌鹽釜神社兒童學苑兒童 後六、二五 ことばの講座 市河三喜

明日の部

前九、一〇 榮養料理「鳥賊のつけ焼」榮養研究所

試合状況

早大對明大 後一、五〇 義太夫 竹本 駒若 後二、二〇 琵琶 後三、〇〇 常磐津「朝顔日記」常磐津箱太夫外 後六、〇〇 子供の時間 お話「私達が音をさく時」戸波親平 後六、二五 郷土講座「佐藤信淵翁」沼田平治 後七、三〇 講演 前駐支公使重光葵 後八、〇〇 ビアノと管絃樂 新交響樂團練習所より 後八、四〇 放送舞臺劇「早月晴上野朝風」助高屋高助外

鶴見氏多忙で 講演會を中止

平商友會の記念事業

平商友會にては来る五月十日母校創立二十週年記念事業の一つとして講演會を催す爲め講師として鶴見祐輔氏に交渉中の處此程多忙の爲め應じ兼ねる旨の回答があつたので遺憾ながら講演會は中止する事になつたと

道路破損を修理

中の作青年分團總出動

石城郡江名町字中の作青年分團員は廿八日午前七時より一時間に亘つて町内縣道の清掃並に破損箇所を修理を行ふと

植木窃盜

平署に捕る

平町新川町二八居住無職坂本五郎(三)は去月廿六日十

- ### 平職業紹介報告所
- 回人を求める方
- △給仕 十六才 高卒 給料面談(平町某公所)
 - △農夫 四十迄 月四圓外 面談(夏井村某)
 - △雜夫 三十才 尋卒 月五六圓(四倉町某)
 - △回職を求める方
 - △旅館番頭 二十七才 高卒 給料面談(信夫郡某)
 - △電話交換手 十五才 高卒 給料面談(平町某)
 - △自動車助手 十五才 高卒 給料面談(平町某)
 - △女中 五十一才 尋四修 給料面談(平町某)
 - △店員 二十五才 中卒 給料面談(平町某)

豪宗剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百二十一號

佐々木見山

菊地大六困り
佐々木見山は試合に負けたとて更に心にかけない菊地大六は兎も角も勝を得た事とて鼻を高くしたが左の腕がはげしく痛む、見ると二の腕が腫れ上り紫色になつてゐる

大「これは痛むわけだ此處を打たれてゐたかナ少しも氣がつかんでた竹刀がもつれ合つた時にこれへはいられたものと見える、これ田口此處へ參れよ」

と呼ばれば若黨の清助が清「お芽出度ふございますイヤどうもあの試合はさても勇ましいことございまして二つの竹刀が繩のやうにからみ合ひましたか名人の試合は實に見てゐてぞつといたします、しかしあなたの大勝利返すもお芽出度いことございます、誠に御馳走さまで定さしお祝ひの御酒も下さること、存じます」

大「まあ待て、酒も飲ませるがちよつとこゝを見ろこの腕を見てくれ腫れてゐるやうに思はれるがそれとも別状はないか」
スツと突き出した松の古木のやうな節くれたつた腕

清助はデット見て
清「オヤ、大分腫れて居ります宜い色でございますな、くつきりとした紫色茄子ならば食へ頃でございませう」
大「何を申す俺れは心付か



なんだが佐々木の得物がこれへ觸れたことがあつたかな
清「そんなことは氣が付きませう」
大「これに印があるやうでは打たれたに相違ないウー、ムサても残念ぢつとこれを見てゐたがまるつたア——

と云つた今此處でまいつたと云つた處で佐々木には聞えなう
清「お氣の毒様でございませう、お痛みなさることと存じます、しかし先生誰れもこの事を知つてゐる者はございませう、あなたが吹聴せずば佐々木に打たれた事はお釋迦さま一代世の人には知れませう」
大「さうだ、貴様もこの事を申すナ何んにしても痛い骨が折れたやうだナ」
清「早速お療治をなさう、若

りませう、しかし醫者を招んで見せるわけにはなりませう、この事が家中の者に知れると佐々木に打たれたことが知れる、そこで神詣でと稱して接骨家の名倉先生の所へ行つて治療を受け、先生これを見て
醫「腕はどうやらつがへるやうにはなるであらうが竹刀や木剣を扱ふことは出来ませう」
と云はれて菊地大六は驚きました、廿日あまり立つといつたみは去つたが竹刀を取ることが出来ない前に申した通り大六は二刀を使ふ左の腕を痛めては右にて得物を取るばかり兩刀使ひが一刀では力が入らない門人はそんな事は知らぬからどうぞ先生お稽古を願ますと日毎に押寄る、よんどころなく道場に出て兩刀は持つたやうなもの、左の得物はさげたまゝ、右ばかりにて教へてゐる
門「先生は眞の名人右の一刀のみにて我々に御指南下さるとはあゝ恐れ入つたものだ」
とほめる大六はいよゝきまりが悪い、スルとこれへ參つたは佐々木見山
佐「さて菊先生豫てお約束の通り拙者が貴公に打負けました以上はこれより御門下の列に加はり御指南を受けることに仕ります」
と云はれて
大「イヤ貴公に教へる程の技はござらぬ先達の試合は武運に叶うて意外の勝利これは運命の神が手前をひい

し骨が折れましたならばちよいとニカワで接いで置ませう」
大「膝の縁とは違ふあゝ痛い、見たために一層いたむやうだ」
とこれから薬をつけて療治をしたがなかく痛が去

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九番

特價一臺金參圓五拾錢 家庭裁縫の簡易化

世類 界に 一般家庭に於てミシンの便利重寶なる事は皆さんの御承知の通り其の需要を要求してりましたが從來のミシンは數十圓數百圓の高價の爲め一般家庭用として購入出来ませんでした今般斯界の大家田島先生の數ヶ年の苦心研究によつて斯く大衆向の愛國ミシンの完成され然も突飛的の定價にて從來のミシンと遜色なく便利で各御家庭には必ず常備として一臺なくてはならぬ様になりました。本機の使用方法は極めて簡單で御子様方でも三十分位の練習で自由に和洋の御仕立が出来ます(御注文は代引又は前金に願ひます。送料實費)

●外交員募集

マルカ
店主 加藤正保
電話三二番

新學期の裁縫用具は

ハシモトヤへ!

女學生用カバン

澤山入荷しました。

田町 ハシモトヤ糸店
電話十四番

(少年店員募集)

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町(電話一七〇番)

大和田醫院

吉田眼科病院

平南町(電話六八番)